

2018 年度

# 訪中団 感想文集

大連 5 日間

日中経済交流研究会

# 目次

大連訪中団 スケジュール		1
税理士法人ガルベラ・パートナーズ	相原 進矢	2
赤木法律事務所	赤木 真也	3~4
アベル(株)	居相 浩介	5~6
大山印刷(株)	大山 武久	7
三恵ハイプレシジョン(株)	落合 良寛	8
(株)カナツ加工	金津 智俊	9
エス・ケー・データ(株)	北川 眞里	10
三和防錆工業(株)	熊谷 蘭子	11
勝井鋼業(株)	小島 広臣	12
坂元鋼材(株)	坂元 正三	13~14
アステム(株)	柴田 充啓	15
細田工業(株)	戴 維雅	16
(株)エフエスカンパニー	谷本 優	17
三和防錆工業(株)	土屋 知積	18~19
(株)豊田製作所	豊田 浩二	20
弁護士法人法円坂法律事務所	中島 宏治	21
(株)電研社	野村 明宏	22~23
Pink Rose	広瀬 みゆき	24~26
日本度器(株)	藤田 眞弘	27
細田工業(株)	細田 新介	28
細田工業(株)	細田 麗	29
弁護士法人法円坂法律事務所	山本 美愛	30~31
フセハツ工業(株)	吉村 篤	32

## 大連訪中団 スケジュール

日付	時間	予定	移動手段	宿泊先	
	8:00	関西空港集合 Aカウンター前	各自	スウィッシュホテル (大連瑞詩酒店)	
	10:10	関西空港発	NH945便		
	11:35	大連空港着			
	12:30	旅順視察 203高地 白玉山(旅順軍港を見渡す)	専用バス		
	17:00	ホテルチェックイン			
	18:00	夕食			
10月21日(日)	8:00	ホテル出発	高速列車	スウィッシュホテル (大連瑞詩酒店)	
		丹東視察			
	9:23	大連北駅			
	11:50	丹東駅			
	12:30	昼食(北朝鮮レストラン)	高速列車		
	14:00	緑鴨江断橋 観光船乗船			
	17:41	丹東駅			
	19:53	大連北駅			
20:30	夕食				
10月22日(月)	8:30	ホテル出発	専用バス	スウィッシュホテル (大連瑞詩酒店)	
		企業訪問			
	10:00	①ネットスターズ大連様 (IT企業)			
	11:30	②大連海事大学(日本語学科) 昼食(生徒達とともに)			
	13:00	生徒達と交流会、意見交換			
	14:00	大連海事大学 出発			
	14:30	北京大成(大連)律師事務所 ③投資環境説明			
		④中国ローカル企業との交流会			
		⑤日系企業の相談事例紹介			
	19:00	夕食会(中国ローカル企業と共に)			
10月23日(火)	8:30	ホテル出発	専用バス	スウィッシュホテル (大連瑞詩酒店)	
		企業訪問			
	10:00	①大連金岡食品有限公司(松井味噌)様 (食品会社) 昼食(松井さんと共に)			
	14:00	②リョービ様			
	16:00	③京セラ様			
	18:30	夕食			
10月24日(水)	8:30	ホテル出発	専用バス		
		大連市内視察 ・中山広場、大和ホテル ・満鉄総裁室陳列館 ・旧日本人街 ・新興エリア東港周辺 ・大連港			
		バス移動			
	12:30	大連空港 着(解団式)			
	14:15	大連空港 発			
	17:35	関西空港 着(帰国)			NH946便

私にとっての1回目の訪中団は西安、2回目の訪中団は平湖、そして今回で3回目の訪中団となる大連でした。

大連は昔からビジネスでもプライベートでも、どちらでもいいので必ず一度は行っておきたい場所でした。何故なら日本人にとって非常に興味深い日露戦争があった場所だからです。大連の経済、政治、文化、教育、自分の目で確認しておきたい気持ちが強かったからです。

大連はご存知のとおり、日露戦争後、ロシアに代わり日本が実質統治していた都市で満州鉄道の本社を置き、大和ホテルを作り、と都市整備に努めてきた素晴らしい都市です。日本に近いこともあり、日本への旅行や留学経験を持ち、日本人の考えをよく理解しているせいか、日本語を話せる中国人の方が非常に多かったです。西安・平湖とは雲泥の差でした。明らかに他の都市に比べても日本人がビジネスを行ううえで言語面でのハードルは低く感じました。

今回の訪中団は、現地法律事務所の弁護士先生との交流もありましたので、同じ士業としては非常に興味深いものがありました。そして今回の訪中団を中心になって組み立てていただきました法円坂法律事務所の先生方にも非常に感謝しております。何故大連という都市に進出されたのか、その辺りの経緯もお聞きすることができたので、とても参考になりました。

訪問させていただいた企業様の中には、日本品質をそのまま維持して中国国内で販売すると価格面では現地中国企業には到底勝てないので、日本の親会社へ輸出販売が基本という会社がありました。日本の品質については昨今色々言われていますが、まだまだ世界的にも高い位置にいるという事で、GDPでは余裕で中国に負けている日本も、中国と対立するのではなく、お互い短所を補強し合う現在の政治の様に、我々のビジネスにおいてもそれを是非とも推奨していきたいと感じました。

大連に限らず、中国はキャッシュレスがかなり浸透しています。これは年々感じております。中国に行くと、必ず1回はマクドナルドで食べ物を購入するのですが、今年のマクドナルドはお金を払うレジ台数が非常に少なく、支払にかなり戸惑ったくらいです。

新しいビジネスを展開していく行動力の速さは、中国人のほうが明らかに上の様に感じております。後先を考えずやるのが中国人の特徴、ということではなく、思考のプロセスが日本人とは根本的に異なっているのだと思います。日本人は結果を気にしすぎて、後手に回っている感が否めません。思考プロセスを変化させ、中国とよいビジネス関係を構築できる様にしていくのが、我々の使命と感じました。

赤木法律事務所  
弁護士 赤木真也

今回で3年連続の訪中団の参加となった。今回は、中国の変化に目を奪われる、というよりも、訪問先企業を含め現地の人々や観光場所などから、“感じる”ことの多かった訪中であった。総じて、空気はきれいでご飯もおいしく、今習っている中国語の先生の出身地でもあり、再度訪れたい街。食事等の感想はさておき、様々な考えが頭を駆け巡る中、要領の得ない感想文であることを予めお断りしたい。

## 1 訪問先企業の方々の言葉などから

### (1) 松井味噌・松井社長の言葉

工場見学の後、約1時間、松井社長から、中国進出時に売上高2億円だった状態から、ピーク時約200億円にまで成長・発展させたこれまでの経緯や、現状の中国と日本の関係とそれぞれの問題点、将来のあるべき関わり方等についてのお話があった。現地の銀行や人々（従業員や役人含む）との関係での苦労話など、なかなか文字にすることが憚られるものもある中身の濃い話であったが、とりわけ、現地で長年の苦節を経ての「日本は既に周回以上の遅れ。」「遅れていて弱いという点を認識しないと、努力家の中国人に勝てるわけがない」との言葉は、今年の訪中で感じていた予感を確信へと変えてくれるのに十分であった。自分自身がさらに努力を重ね、努力家同士のネットワークを作っていかなければならないと再認識した。

### (2) リョービと京セラの工場への訪問から

「ダイキャスト」製品という言葉は、恥ずかしながら初めて聞く言葉であったが、リョービの工場で見たその製造方法等は汎用性がありそうで、非常に魅力的に見えた。

他方、リョービの工場見学時に気になったのは、詳細は割愛するが、労働環境の過酷さである。また、従業員を内陸や農村部から集めているものの、春節などの帰郷時に大幅に退職者が出る、かといって賃金を簡単には上げられないという、去年以前の現地日系企業への訪問時にもあった課題はここにも見られた。次回以降は、今後これをどう乗り越えていく予定なのか、という話をもう少し突っ込んで聞いてみたい。

他方、京セラの工場見学では、違った話も出てきた。従業員は遼寧省出身者がほとんどであり、農村部から苦労して集める、という状況でもないとのこと。単純に賃金の差なのか、企業理念への共感なのか、その他従業員を大切にしている意識なのか、複合的な要因もあるとは思われるが、これは今後の訪中の際に、また確認してみたい。

## 2 現地の若い人々の苦悩

今回訪問した大連海事大学での学生との交流では、学生による演奏等、工夫を凝らした熱烈的な歓迎を受け、非常に心地よかった反面、現地の大学生の置かれた厳しい状況も認識させられた。

大連海事大学は、いわゆる「重点大学」であり、中国各地から優秀な学生の集まる大学である。彼・彼女らの日本語はかなり上手で発音もよく、さすが重点大学の学生。た

だ、卒業後に話が及ぶと、大連近郊の賃金水準は、上海や杭州など南方よりも相当安く、市内や付近での就職をするよりも、南の方に就職するか、さらにキャリアアップするために留学や大学院進学を考える学生がかなり多いようである。そして、南に行けば物価が高いために手元に十分な貯蓄が残るとはいえず、かといって、大連近郊で生活しても所得自体がそれほど高くないために十分な貯蓄が残らず、思うような人生プランがなかなか描けないようであった。

近年の中国人の結婚事情として男性は家と車が必須といわれ、さらに結婚後は子女によりよい教育を施そうと高い教育費用をかけ、さらには教育が良いとされる学校の近くに別途不動産を購入して転居することもあるようだ。若い世代も、大学卒業後はできるだけ早く高い賃金、高い収入を目指す環境にある。そのためか、結婚や出産に関して、学生達から男女関係なく「結婚するのは30でできたら良い(まだまだ先)」、「子どもはいらぬか作っても一人」という答えが返ってきたのは、ちょうど私が20歳前後のころや社会人になった直後くらいに同世代(昭和50年代半ばうまれ)と話していた内容を彷彿とさせ、また結婚年齢が相対的には早いとされる中国社会の変化をも感じさせた。

同じ日の夜、飲みに行ったラウンジでも現地の若い子(20代半ば)から色々と状況を聞いてみた。どこまで本当かはともかく、大学の同級生の中には就職できなかった人も多いこと、南方で就職できても一人暮らしを出来るほどの収入としては心許なく大連に戻ってきた人もいること、近隣で就職しても収入が上がらず実家から出勤して副業もしていること等・・・そして、「結婚なんて今の状況で考えられない!」とのその女性の言葉は、昼間の大学生の言葉と符合するものであり、大連の若い人々を取り巻く環境の厳しさの一面を見た印象である。

### 3 現地の人の視点と歴史問題を考える

北朝鮮と中国国境の丹東のほか、日露戦争以後の歴史旧跡も今回多数訪問した。203高地、東鶏冠山、満鉄資料館などに残された史料の数々。大学受験のために日本史・世界史を学習したはずであったが、少なくとも自身の学習姿勢として、あくまでも日本側ないしは列強側からの視点であり、巻きこまれた現地の一般の方々という大事な視点を欠いていたことに気づかされた。現地の史料に、特段反日的な表現があったわけではない。現地の人たちからすれば、第三国同士が当地で戦争を行い、強制的に労働に駆り出されたり攻撃の犠牲になったり・・・。どういう思いで日露戦争～日本による実効支配を見ていたか、当時の現地の人たちの怨嗟等の声が聞こえてきたような気がした。

救いだっただのは、満鉄資料館の結語の一部(意識)。「日本人も戦争の被害者。責任を負うべきは当時の一部の日本の軍国主義勢力である。数千年もの交流のある日中両国民は、歴史を鑑(かがみ)とし、未来志向で平和を形成し、世代を超えて友好関係を築いていくべき」。歴史修正主義のはびこる現状ではあるが、大切なのは歴史を直視し、同じ過ちを繰り返さず、未来に繋げていくこと。歴史を学ぶ意義を再認識した旅でもあった。

### 4 最後に

今年も訪中委員会の皆様、素晴らしい旅をありがとうございました。訪問先の皆様、ガイドの李さん、快く応対下さり、感謝に堪えません。この場を借りて、御礼申し上げます。

以上

2度目の訪中団・団長として訪問しました。

今年は「比類なきスピードで変化する中国から学ぶ、中小企業のための訪中団」をテーマに「大連」への訪問を実施しました。

大連といえば、日露戦争の舞台となり昔から日本人にはなじみ深い町であり、比較的早くから日系企業が進出している地域です。親日的とも言われる大連がどんなところなのか、一度は行ってみたいと思っていました。

大連の第一印象は道にごみが落ちておらず清潔で、空も青く気持ちのいい印象を持ちました。中国では道路を徒歩で横断するときは、自動車に煽られてドキドキしながら横断するのですが、運転手がスピードを落としてくれるので、いつものような緊迫感がなく横断することができました。雑踏とした雰囲気のない洗練された町という感じがしました。

#### (1) 歴史探訪<旅順>

初日から203高地を巡りました。あまり観光客がいないと聞いていたのですが、我々が着いた時には日本人の団体客とも遭遇したりで、意外と(失礼かな?)賑わってました。アップダウンの激しい道のりでしたが、旅順港を見渡すことができました。この港を巡って何人も人が亡くなったという歴史を確かに実感しました。これから先も同じようなことが起こるのか。そうならないことを願います。

#### (2) 中朝国境へ<丹東>

2日目は大連から高速鉄道に乗り、約3時間かけて丹東を訪れました。川(緑鴨江)を挟んで向かい側が北朝鮮という丹東は、小さな田舎町かと思いきや駅の周りは活気があり、大きなビルも立ち並び、賑やかな街でした。日曜日ということもあり中国人観光客も多かったようです。お昼は北朝鮮料理を食べ、そのあと遊覧船で緑鴨江を周遊しました。船から見える景色は右(北朝鮮側)と左(中国側)で大違い。北朝鮮側は人の気配を感じないぐらい静かで、不気味でした。

#### (3) 企業、学校訪問

①日本の「NET STARS」の子会社、「NETSTECH 社」を訪問。WeChatPayなどキャッシュレス決済を実現するためのアプリを開発しており、現在の仕事内容を丁寧に説明してくれました。

②大連海事大学・日本語学科では、約50名の生徒が出迎え、楽器演奏、スピーチ、歌を披露してくれました。一生懸命練習したことが伝わる内容で感動しました。最近毎年学校訪問を実施していますが、純粋な学生の姿にはいつも心が洗われる思いがします。

③北京大成(大連)律師事務所は、中島先生ともゆかりの深い劉弁護士が所属する弁護士事務所です。我々の訪問を歓迎してくれました。政府の投資説明会は予想外でしたが、中国人経営者との交流もできて、なかなか思い出深いものとなりました。

④大連金岡食品有限公司(松井味噌)の松井社長は、とても熱い思いのある経営者でした。28年前に大連で初めての外資企業として進出し、優秀な人材に恵まれて事業拡大に成功した光の部分がある一方、政府の人間にたかられたり、従業員に会社の持ち物を持っていかれたりという影の部分もあるというリアルな話をいくつも聞かせてもらいました。ただ、日本に比べてビジネスのスピードけた違いに早く、起業で大きく儲ける人がいっぱいいるのに、日本人は慎重すぎて儲け損ねており、とくに周回遅れになっているという危機感を持っているそうです。そういう松井社長も、中国からいつ追い出されるか分からないと考えて、いくつかリスクヘッジも考えているあたりはさすがだと思います。まさに訪中団でしか聞けない話を聞かせてもらえました。

⑤リョービは、自動車部品のアルミダイキャスト成形を行っており、1600人近い従業員を14名の日本人でオペレーションしている会社でした。中国の自動車産業はまだまだ発展していきそうです。

⑥京セラリョービは、電動工具を手掛けていたリョービの部門を京セラが買収してできた会社で、京セラ自身も切削工具のチップを製造していたが、将来生き残れるのかという議論の元、リョービの買収に至ったそうです。今後京セラフィロソフィーやアメーバ経営の文化を活かして、この会社がどのように変化していくのか楽しみだと感じました。

最後に、今年の訪中団は28名に参加して頂きました。募集を早めに開始したことや昨年初参加の方が今年も参加となったこと、訪中団の魅力を伝えてくれる人が増えたこと、などなどいろんな理由があったと思いますが、大変活気のある訪中団になったのではないかと我ながら思っています。

班長さんには点呼のご協力をお願いし、煩わしい場面もあったと思いますが、最後までありがとうございました。日本と違い、中国では思い通りにいかないこともいくつもありますが、これもまた経験と思っていれば幸いです。

団長としては、何事もなく、全員が無事に帰国できて良かったと思います。

訪中委員の皆様、お疲れ様でした。

また来年も素敵な訪中団が実現できたらいいですね。

ありがとうございました。

## 2018 訪中団（大連、丹東）に参加して

大山印刷（株） 大山武久

10 年前初めて蘇州を訪問した時は、植え込みには吸い殻やゴミがいっぱいだった。平気でゴミを捨てたり、つばを吐いたりする人間がいた。「掃除する人間がいるから路上にゴミを捨てても問題ない。ゴミがないと働く人間が困る」と、不思議な言い訳を聞いたものだ。駅のごみ箱に母親が子どもにおしっこをさせている光景は、「文化の違い」という言葉でかたづけられるものではないと思った。僕の頭の中は「中国は安い。汚い。理不尽…」と否定的なものばかりであった。当時の日本はリーマンショックのダメージを受けていたが、日本の方がはるかに進歩的で豊かな国だと思っていた。毎晩カラオケやマッサージに通いながら、小姐が日本語を話すのは、僕の人民元が目当てなのだろうと中国人を見下していたのかもしれない。知らず知らずのうちに優越感に浸っていたのだろう。

今年、大連や北朝鮮との国境の町丹東を訪問して町にゴミが落ちていないことが気になった。去年の平湖や杭州でも同じ印象だった。何がこの変化を生み出したのだろうか。

訪問企業でスマホ決済の仕組みと現状を教えられた。日本では紙幣への信頼度が高いからキャッシュレス化は鈍い。言い換えれば紙幣への信頼度が低いからこそ中国ではキャッシュレス化が進むのだと理解していた。また、専用アプリで管理されるため、所有者の住居、収入、資産、家族構成、嗜好、行動傾向などの個人情報吸い上げられビッグデータとなり管理社会の基盤になると否定的な受け止め方をしていた。だが、ビジネスについて語る中国人スタッフの目には新しいものを開発する喜びと自信があった。自分たちの明るい未来を想像し突き進んでいるようだ。この原動力は本当にうらやましいと思った。

中国人経営者から「日本は周回遅れ」と言われると「またまた。日本の底力を知らないくせに。はったりばかりのうそつき」と思っただろうが、松井社長から聞くことで、私の持っていた優越感は吹っ飛んでしまった。

この 10 年間、私はどんな変化をしたのか。中国人の持つ原動力のかけらも持っていなかったことが、恥かしくなった。

## 訪中団に参加して

三恵ハイプレジジョン(株) 落合良寛

10月22日月曜、企業視察が始まりました。最初の訪問先は、ネットスターズ大連様IT関連のソフト開発会社です。業務内容から説明が始まります。話が徐々にキャッシュレス決済に移りだすと、参加者の質問が絶え間なく繰り返され始めます。キャッシュレスの仕組みや口座間の資金移動のやり方を解説され、中国銀行に口座を持たれている大山さんが実際に資金移動して大いに盛り上がっています。現金払いが根強い日本の小売業界。そんな中で日々生活している私たちは興味深々なのは理解できます。皆さんの質問の嵐を遠めでみているとなんだか異様な雰囲気を感じました。

私が始めて中国を訪問したのが25年位前。仕事で頻繁に訪中しだしたのが15年前。当時の中国経済や生活水準、マナーなどは日本と比べ数十年は遅れていると囁かれていました。中国からの視察団とも幾度か交流いたしましたが、彼らの目は真剣で日本の技術を得ようと質問攻めにあつたのを思い出しました。今、日本人が中国人に盛んに質問しているのです。当時と間逆な光景です。世界第2位の経済大国も既に追い抜かれ、家電メーカーも姿を消し、町では中国人観光客頼みのホテルやお店。メイドインチャイナが席卷しています。ここ大連は清潔感が漂い綺麗な街路樹。車のクラクションが聞こえてこない。センスのいい洋服を着飾った若者を眺めていると、もう後進国ではない中国です。

今回の訪中での目玉は北朝鮮との国境の町丹東観光です。連日メディアを賑やかしているタイムリーさもあり自分の目で見た国境の向こう北朝鮮は、丹東の町と比べあまりに貧しくその光景は印象強く今でも脳裏に焼きついています。視察は大連海事大学の学生さんたちとの交流や何社か企業訪問させていただきましたが、それなりの感想はあるのですが、皆様と重複しそうで控えておきます。最後になりますが、今回アテンドいただいた法円坂法律事務所の中島さんはじめ訪中委員長の居相さんや委員の皆様、中身の濃い企画をご尽力いただき感謝。心よりお礼申し上げます。

2018年度、日中経済交流研究会訪中団、大連、丹東視察について

(株)カナツ加工 金津智俊

2018年10月20日、関空から大連周水空港に昼頃到着、第1の感想は

【空気が汚い】でした。20年ほど以前に大連を観光で訪れたときには、町は綺麗で高層ビルも余なく空気が綺麗な町であったと記憶していましたが？

第1日目に訪れたのが「203高地」ですが、よく歩きました。高台に建てられていた塔に”203高地の紹介“文がありましたが日本人に対して失礼な部分が数カ所ありチョット残念でした。満洲時代の観光は、気持ちが重くなりました。

第2日目は、今回の目玉でもある”丹東“の視察でした。

中国は、飛行機、鉄道、大きなスタジアム、劇場とたくさんの方が集まる場所への入場時には必ずといってよい程、手荷物検査があります。世界に報道はされてはいませんが、テロに近いような事件がたくさん起きているのでしょうか。

丹東駅に到着して、北朝鮮レストランでの昼食です、北朝鮮の女性が歌や踊りで楽しませてくれました。川を越えたら北朝鮮である緑鴨江断橋で寒さにこらえながら川向うに住んでいる人を探しましたが？

第3日目はいよいよ企業視察と大学生との交流会です。

ネットスターズ大連様で企業説明をしていただいた社員さん、日本語がとても綺麗で驚きました。大連海事大学、で日本語を勉強しているたくさんの方の学生さんと交流を持ちました、学校内の散策、そして昼食です、敷地が広く建物も大きく全てが日本とはけた違いでした。北京大成(大連)法律事務所での懇談会では、大連の市役所関係でお偉い達の投資環境説明会では異様な雰囲気での勉強会になりました。

第4日目には、松井味噌様での会社訪問をさせて頂きました。大連進出企業では、老舗だそうです。【社員は泥棒、役人はヤクザ】長い歴史の中で確立した松井味噌様の格言ではないかと思われます。リョウビ様、京セラ様、日本では上場企業なだけあり経営に余裕があり、同友会の教えにある「社員はパートナー」との意識は？社員さんを大切にしているナンボ？

第5日目には、大連市内の観光、いろいろ案内して頂き企画して頂いた幹事様ありがとうございました。旧日本人街、旧ロシア人街等満洲時代の歴史巡りをさせて頂きました。

最後に、企画 運営していただきました、幹事様 役員様 5日間本当にありがとうございました。今回は 北朝鮮を身近に感じる事が出来ました。

世界第2位の発展国 中国はどこまで大きくなるのでしょうか。

2018 訪中団〈大連・丹東〉に参加して

エス・ケー・データ株式会社  
北川 眞里

会報誌に挟みこまれたチラシを目にした時、毎月の大きな業務のスケジュール、その他の会社の状況、息子たちや両親の様子をもとに、今年なら行ける、行ってみたいと思った。案の定、日程が近づけば近づくほど、突発的な対応事項が多々起きたが、何とか出発できた。

日常から離れたことで、自分を見つめることになった。帰国し雑多な諸々に忙殺される毎日だが、今回の参加に向けて、少しでも自分を高められるようにしたい。

それでもやらなあかんねんや。

中国進出をされて 30 年近くになられる松井味噌（株）社長の松井さんは、ばさばさばさっと、ものすごいことを話された。

一旦やると決めたのなら、何があってもどうにかするしかない。自分の周りで起きていることなどは、しっかり考えておけば想定内のことばかり。十分手を打てるはずだ。

大連に残る日本の建築物を見て。

父方の祖父が海外赴任先の一つとして中国にも行っていたことがあったのは聞いていたが、父がまだ高校生の頃に亡くなっており、私にとっては遠い昔のこととしか思っていなかった。今回の旅で、大連に残る日本の建築物を見て、大正から昭和にかけての中国大陸で祖父がどんな思いでどんなふうにごろごろしていたのかに思いを馳せるとともに、何かしら文献など残されていないか調べてみたいと思った。

最後に。

期間中ずっとガイドを務めてくださった李さん。もっとお話しさせてもらえばよかった。語尾まではっきりとおっしゃる話し方、ちょっと困ったお顔のあとのにっこり笑顔、参加者の求めに応じようと小走りに急ぐ後ろ姿。誠実な感じ、真面目さがにじみ出ている。きっとたくさんの方が心掛けや努力の結果だろう。見習いたい。

そして訪中委員会の皆さん。ただただ感謝でいっぱい。本業お忙しい中、盛りだくさんの内容の企画と実施に向けて、時間を割いて準備して下さったことと思う。参加した者が聞きたいだろうこと、行きたいだろう場所、そして中国をよく知る者として見せておきたいことなど。全部が全部、今の自分が吸収できたとはとても思えないが、自分なりに感じたあれこれ、これからに生かさなければと思っている。

以上

三和防錆工業(株)  
取締役 熊谷 蘭子

この度で3回目の訪中参加になりますが、参加するたびに中国の広大さには驚かされます。

第一日目 お天気に恵まれた大連の町並みを車窓から見学しながら少し紅葉が始まっている様子。そして日本の戦争の歴史でもある旅順観光へ。  
有名な203高地の山まで目指しましたが、頂上の少し手前で足が悪いので断念。  
駐車場で待ちながら、早い目の紅葉を愛でました。

第2日目 大連から丹東に高速鉄道で行きましたが、北朝鮮が目の前に見えるとは、本当に驚きました。それに弊社のルーツともいえる橋梁部品の元祖をみた時には社員に見せたい気持ちでいっぱい写真を撮りました  
一番感動した旅になりました。

第3日目 大連海事大学、日本語学科を訪問  
大学生の交流は、今回で3回目ですが、今の中で一番日本語が上手だったと思います。  
中でも私と同席した女子学生さんは孫によく似ていたので、特にかわいく思いました。  
お昼のお弁当も大変美味しくて、よかったです。

北京大成法律事務所

投資環境説明会ですが、中国も大企業から零細企業も数々あって、それぞれの良さを出し合っていると思いました。

「日本でも、あのパワーがある弁護士さんがいたら良いのになー（笑）」

第4日目 松井味噌有限公司 訪問

工場見学内をゆっくり見学・・・味噌は日本の伝統と想っていたのですが、中国で生産され中国国内で販売との事。オートメーション化されているので、大量に生産されている。  
松井社長の元気の源は何でしょうね！！

☆今回最後の食事会に思わぬ人の参加があり、「宇都宮さ〜ん」でした。驚きと、懐かしさで大変良い思い出になりました。また次回も参加できれば良いな・・・と思っています。

昨年に続き2回目の参加でした。

参加の目的として、

1. 中国の現状を知りたい（特に北朝鮮との国境には興味があった）
2. 旅行や出張等では行けない場所を見学でき、また現地の方の生の意見を聞きたい。
3. 5日間、ともに行動する会員の皆様と深く交流でき、色々教えてもらいたい。
4. 参加している間の会社を社員に任せる事で、社員の成長が楽しみ（でもドキドキ）

中国は何度か訪問していますが、大連、丹東は初めてでした。関空から2時間とすごく近く、中国のほかの都市に比べ、町並みも綺麗だし、人も親切ですごく好印象でした。

特に見てみたかった2日目の丹東は、大連より高速鉄道で2時間半弱、日本で大阪-東京を日帰りで行ったような強行スケジュールでしたが、TVでよく出てくる橋、北朝鮮と中国の街並みの発展の違い、北朝鮮レストランなど見どころ満載でした。

3日目は企業訪問、大学生との交流。学内を案内してもらった後一緒に昼食。大学生の司会で、スピーチ、歌など緊張しながらも流暢な日本語で披露していただきました。私たちのためにすごく練習したんだらうな〜と思うと心が熱くなりました。

大学を後にしてからローカル企業との交流会と聞いていたが、会場に行くと政府関係者やカメラマンなどがいて、異様な雰囲気。これも中国らしいアピールの仕方なのかな。

ローカル企業だけになると、日本語ができる方がテーブルにおられ同友会のテーブル討論に近い気軽な雰囲気で交流できました。

4日目も企業訪問。松井味噌さんは28年前から大連に来られた先駆者で、後から来た企業の撤退や苦勞もたくさん経験されており、先の展開とリスクをよく考えて行動されておられます。中小企業のオーナーという印象。京セラ、リョウビは5Sやマニュアルも徹底された日本の大企業。2社は同じ日系企業ながら、全く違うカラーという印象でした。

今回交流した弁護士の劉先生、松井社長をはじめ中国と日本で活躍されているみなさんは本当に熱かった！！

昨年と少し違うのは訪中委員として、プランを作っていく事から参加させていただいた事です。（私は名簿作成ぐらいしか活躍していませんが・・・）

今回、団長の居相さん、中島さん、谷本さんを中心に、交流の内容や訪問先の選定・交渉、時間配分、食事内容、両替、お土産など、本当に細かなところまで想定し、前日ぎりぎりまでやりとりしてしていました。それでも現地に行かないとわからない事も多いなと思いました。参加の皆様ともたくさん交流させていただき、有意義な5日間になりました。

ありがとうございました。

## 〔訪中団感想文〕

### 日中「逆転」を実感して

坂元正三(坂元鋼材株式会社)

私は学生時代の2年間、中国の長春に住みました。1993-94年です。天安門事件(1989年)の記憶が生々しく、中国がまだまだ貧しかったころです。天安門で政治の挫折をみた中国は、照準を経済に合わせました。たまりにたまった人民の不満に「経済成長」というアメで応えたのがこの30年間のようでした。

2000年を迎えるころ、一緒に留学時代を共にした友人たちが「中国は豊かになり始めたぞ！」と言い出しました。

そして2009年、私は同友会の訪中団に初めて参加しました。中国は「そこそこ」豊かになり始めた印象でした。それから訪中団でほぼ毎年の変化を観察しましたが、つねに見続けるがゆえに大きな変化は実感しないまま。かつての留学経験で中国の現実を生活者としてなまじ知っていたからこそ、「あの中国が、まさか」との思い込みが消せなかった私でした。

その間に中国はGDPで日本を抜き去ります。この時にも「人口一人当たり」なら圧倒的に日本だ、と自分に言い聞かせていたように思います。

#### ■ 追いつかれた日本

「おや？」と思い始めたのが2014年のこと。同友会・日中の友人(二木氏、中野氏)と私の3人で遼寧、吉林、黒龍江の東北三省を行脚した時です。まさに私が留学していた地域。かつて瀋陽から長春は列車で5-6時間かかり、切符を買うことすら一苦労も二苦労も。車両は不衛生で乗り心地も悪い。ところが新幹線の開通により3時間半に短縮され、清潔で快適な車両に一変。20年ぶりに降り立った長春の街は高速道路が整備され、高層ビルが建ち並び、ネオンが輝き、なにより人々が裕福で明るくなっていた。中国人すべてが豊かになったのではないにせよ、「追いつかれた」との印象を強く持ちました。

#### ■ ITで駆け抜ける中国

その後も訪中団に参加し続け、1-2年と空けずに中国を定点観測しました。昨年の平湖・訪中団では、特にIT分野における中国の快進撃を目の当たりにしました。買い物はスマホでの支払いが主流となっており、街中には監視カメラがあふれかえていました。いずれもITを使った国家による情報統制のにおいを感じます。これでは天安門事件のような政権への反抗は起こしようがない。中国政府の深慮遠謀を感じて恐ろしくもなりました。

ITの分野で大きく後れを取っている日本。今回の訪中団でもそれを実感しました。訪問先のIT企業では「スマホ決済」に話題が集中。「中国人は買い物に行くのに、もはや財布を持たない」と言われるが本当に本当なのか。私は質問しました。「この数カ月間で実際にお金(現金)を触った

のは何回か？」と。すると中国人の女性社長は、うーん、と考えるこみました。考えに考えた挙句、「絶対に現金しかイヤ、という人に 30 元返したことが一度だけあった」。財布が不要なのは本当でした。まるで近未来だと思っていた世界がそこにありました。

#### ■ 松井味噌社長の語る中国 25 年

そして今回もっとも強烈だったのは、松井味噌の松井社長の語る中国 25 年の実体験でした。兵庫県明石市の小さな味噌会社の後継者・松井さんは 1990 年代初めにいち早く大連に進出し、いまやこの業界の第一人者となっています。

25 年前の進出当時、松井味噌は年商 2 億円の中小企業でした。それが 2008 年には売り上げ 190 億円、つまり 100 倍にまで成長。「その間、営業マンは一人もいなかった。いまでも営業マンは私一人だけ」と松井社長。「中国の発展は想像以上にパワフル。うちは大連に進出した日本企業で一番古い部類。まあ上手くいった。しかし同業が 11 社追いかけてきて 9 社が倒産。そのうち 4 社は日本も倒産した。いま積極的な運営をしているところは、事実上ない」

松井社長の話からは中国ビジネスの超特急ぶりが見てとれました。「うちは借金を返したからよかった。中国の金利は 12-25% が普通。もし 25% で借りていたら目の色が変わるはず。街金で借りているようなもの。だから回収を急ぐし、商売も拙速」。日本人のビジネスが悠長なのは日本の金利が 1-2% だから、ということが分かります。我々の環境が如何に甘いか。

同社の従業員の話聞いて、また驚きました。「中国人にとって一番の利殖は家。この 30 年間、毎年 15% ずつ値上がりした。住宅ローンの優遇がある。家を買う、ローンを払う。離婚すると奥さんにもう一つ権利が生まれるから、いったん離婚してもう一軒買って、そして再婚する。うちの社員は平均で 2 軒持っている、一つは自宅、一つは投資用。最大 5 軒持っている社員もいる」。工場に停まっているマセラッティ、ベンツ、BMW。これらは社員さんのクルマでした。

#### ■ 日中「逆転」

「貧富の差が激しいと思われるが、中国はもはや非常に豊か。日本では一番のお金持ちと言われている孫正義、柳井さん、そのクラスが 100 人以上はいる。中国は発展途上というが、上の 3 割を見ること。お金持ちはたくさんいる。日本はすでに貧乏。だからインバウンドがあれば大阪に買い物にくる。買い漁りだ。むかし日本人が東南アジアなんか買い物に出かけて『安い、安い』と言っていた。いま中国人が日本に来てそうしている。GDP は 2010 年に追い抜かれた、8 年後の今は 2.5 倍になっている。ビジネス上は周回遅れ、後ろが見えない状態。経済で日本を抜いた中国は、『かつて文革で失敗して 30-40 年だけ日本にリードを許したけど、もう一生負けないよ』という感じ。ただしバブルといえばバブル。ここから大連市内に帰る途中、建築中のクレーンの数を数えてみてください。帰るまでに 200 以上見れるだろう。40 階以上のタワーマンションだらけ、それが基本的に全部埋まる」

松井社長の生々しい中国経済論を聴き、私自身の中国理解にパラダイムシフト(思考の大転換)を迫られました。

## 訪中団に参加して

アステム(株) 柴田充啓

今回初めて訪中団に参加させてもらいましたアステム(株)の柴田充啓(ミツヒロ)です。大連も初めてで、中国は香港を除き 2010 年に北京・天津旅行以来 2 回目です。今回参加する目的は、①中国の現状を現地へ行って視察してみたいと思った点と、②自社商品(販売管理クラウドパッケージ)の中国進出の可能性があるかという点です。以下に感想文を簡単に記述します。

- ① については、都市は異なるが 8 年前から町がきれく衛生的になっていると感じた。トイレの紙を便器に流さなかったのが今は流せるし、扉もちゃんと付いている。公衆便所は殆ど和式でたまにある洋式には中国人は利用しないのでガイドさんに訊くと、自宅は洋式だが公衆便所は和式しか入らない、家族なら良いが他人の後で直接触れるのはいやと言う。
- ② について、ローカル企業との懇親会では、日本で 6 年働いた後、大連で起業したソフト会社の社長と知り合えたので、ウィチャットでこれから交流深めて情報交換できるきっかけができた。また、日本のソフトウェア会社に就職したいという海事大学の学生とも知り合いになれた。

北京・天津には、長男の転勤と同時に新婚生活のスタートで名古屋の嫁の両親と天津で合流して、陣中見舞いがてらに夫婦で旅行した。その時は日本語しかわからず、新幹線の切符買うにも一苦労した。4 年間の転勤中には子供も生まれ、再度訪問になるだろうと中国語教室に週 1 回通い、今回の旅行で通じるか試すのも副目的であった。おかげで、初日のマッサージの 80 分間は沈黙で過ごす事なく、断片的でも会話が成立した。

まず、大連空港に着陸前の下界をみると、広い範囲にマンションが建っているのをみて人口が多い事をあらためて感じさせられた。大阪市が 272 万人で大連が 600 万人超、大連半端ないって！

- 1 日目の旅順・203 高地観光は「坂の上の雲」で知ってたので現地訪れ、砲弾や突撃のシーンが想像できた。
  - 2 日目の丹東観光では、鴨緑江を挟んで中国と北朝鮮の違う世界を垣間見る事ができた。
  - 3 日目の大連海事大学の学生の日本語の会話力には驚いた。また、夕方からのローカル企業との交流夕食会は有意義であった。
  - 4 日目の 3 社の工場見学は、こういう機会でないとなかなか体験できないので面白かった。
  - 5 日目の市内観光の大連満鐵陳列館では、いいお土産をゲットした。遺留品の切子グラスで、帰国してから芋焼酎ロックグラスとして愛用している。
- 滞在中のホテル「大連瑞詩酒店」は 5 ツ星で良かった。フィットネスジムもあって 3 日目と 5 日目の早朝から小一時間利用させてもらってスカッとし、その日は快適であった。

今回、初めて日中経済交流研究会・訪中団に参加させていただきました。私は中国出身ですが、訪中団の皆様と一緒に、中国の現状を視察することを楽しみにしておりました。

最初の訪問先はネットスターズ大連社でした。中国主流の支払い方法である WeChatPay や、若者に人気の Weibo の運営について、日本のクレジットカードや銀行口座が使えないこと等、気になる質問を行いました。解決のカギは中国政府です。外貨の流出を防ぎたいという思惑が見え隠れしている様です。

次に大連海事大学・日本語学科の学生たちと交流をしました。私自身も日本語学科で学んでいたの、大学時代を思い出し、日本語を学ぶ楽しさや難しさ等、共感する話で盛り上がりました。

北京大成（大連）律師事務所は、日中企業間の企業法務を扱う法律事務所です。今後、益々日中双方の企業が互いに進出する上で、法的な備えを行う事は不可欠だと言えます。事務所はきれいな高層ビルにあり、屋上にヘリポートがありました。屋上からは、大連の全景が見えます。（残念ですが、当日は霧で何も見えませんでした。）

翌日に訪問しました松井味噌様は、海外進出が目覚ましく、（中国・シンガポール・マレーシア）驚嘆しました。各国の状況を理解し、現地支社における内部統制がきちんと整備されている点は、印象に残りました。

最後の訪問先であるリョービ様と京セラ様ですが、広い工場であり、清潔でした。製造ラインの見学を行い、機械化されている所と、手作業で行う所があり、効率的な製造過程を目で見て実感できました。定時後、社員の方々は各自の作業エリアを清掃している点からも、勤勉さが伝わってきました。

大連の星海湾大橋・二〇三高地・海鮮料理  
丹東の中朝国境線・鴨緑江断橋・北朝鮮美人  
食事も美味しく、全て印象的でした。

訪中団参加の方々の中には、中国に興味を持たれている方や、中国語を勉強されている方が多く、これからも更に日中友好が進んでいく事に期待の思いが持てました。経営者の方々から色々なお話を聞かせて頂きましたことも、私にとって貴重な経験となりました。皆様と円卓を囲み、食事や歓談をして親睦も深まり嬉しかったです。

期間中、持ち前の中国語を活かしながら、別の角度から中国の発展を確かめることが出来ました。上述した様々な事を吸収して、とても勉強になりました。

ありがとうございました。

## 2018 年訪中団 報告

株式会社エフエスカンパニー 谷本 優

今回は2回目の訪中団参加・初めての大连市への視察ということもあり、訪中委員として参加させていただきましたが、ゲスト参加のようなワクワクした気持ちで少し気の抜けた委員の立場でありました。申し訳ありません。

大连市は日本企業にとって歴史もあり、住みやすい街と聞いていましたが、まさにその通りで、日本語もいろんなところでも聞くことができ、人が親切丁寧で物価も安く、本当に大连市が好きになりました。観光ではなかなか行くことの出来ない地にも行くことが出来、今まで中国に長く訪問していますが、行ったことのない場所がまだまだ多くあり、中国の魅力を改めて感じる事が出来ました。

企業訪問では今話題の電子決済のシステム製作企業や現地にて20年以上前から滞在し、中国で会社規模を大きくされた企業、日本でも名前を聞く大手企業2社と非常に有意義な時間を過ごすことができました。

また大連海事大学(日本語学科)へ訪問をさせていただき、学生さんの日本語のレベルが高く、今すぐにでも企業で就職できるレベルの学生さんばかりで驚きました。またどの学生さんも積極的に日本人と会話をし、何かを学ぼうという姿勢が目に見えて受け取ることができました。こういった人と人とのつながりを大切にし、縁が切れないよう、つなげていこうと思います。

最後に今回の訪中団の企画・段取りのほとんどを手配いただいた中島さん、本当にありがとうございました。

また団長としてまとめていただいた居相委員長ありがとうございました。

多忙の中、走り回っていただいた訪中委員の皆さま、

今回ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

また来年もいい企画を用意できればと思っておりますので、ぜひ皆様のご参加をお願いいたします。

5日間ありがとうございました。

関空から飛び立ち飛行機の窓からの眺めが、日本列島の地図模様を描きながらのフライト。観光写真を撮って、へたな水彩画の題材を見つけない程度の軽い思いでした。経営から離れてみると、1に観光、2観光のつもりで気楽に参加。そんな不謹慎な目からの感想文です。「何しにいったの」と言われる旅でした。

### 1、びっくり(戦争の爪痕)

203高地、日露戦争の爪痕、たぶん漢字の羅列に、日本がこんなことをした。こんな労働を中国人にかせたのだ。などと読めないのが、勝手に想像しながら拝見。写真、パネルを見ながら、日本人として、どう読みとるのか。辛いな～が、実感でした。やはり重い気分が散策。戦争はすべて破壊。人も文化も。でも戦争の爪痕を多く残せる国土の広さを見せつけられました。景色の良さを楽しめない1日目でした。「やはり・観光場所ではない」「逃げたくなる自分と向き合う旅だなあ～」と、簡単ではない旅行の始まりでした。

自転車を見かけない中国にも、びっくりしました。ホテルの窓からの真向かいの公園のライトアップが美しく、いつてみたいと思いましたが、勇気なく終了しました。

### 2、びっくり(中国のビッグさ)

風評被害の怖さ・報道ではかなりの環境の悪さ、不潔な話など、日本人のまだ一部に残っている中国のイメージを一掃してくれました。日本の福島もそうです。安全、安全。辛いのは被災者です。報道の人も、ネットの怖さも、キャッシュレス生活の中国も、びっくりでした。早く東北、広島も復興してほしいのに、ふわふわ気分の自分を恥じました。広いホテルですることもなく、幸福な老後を考えてみました。

中国の空港、駅の大きさなどは高齢者には優しくなく、移動ばかりが多く、つつい今後を心配してしまいました。中国も高齢化、私も高齢化、もちろん日本も同じです、つついエレベーターを探します。司馬遼太郎のエッセイで「広すぎる中国の不幸」を読んだとき、イギリスや他国が中国を蝕んだ歴史から、当時は13億でしたが、今や14億の人が「本当に幸福か」を書いていました。司馬遼さんの時代から、今の中国が見えますか？と聞きたいです。

また都市部は車も人も多く渋滞気味で、大連には農業、畑が見えず、草ぼうぼうの空き地。田舎暮らしの家も見えず、高層マンションと商業施設と学校が目立ちました。道路を隔てて、過去、現在が混在。国策の凄さです。政治家の力の凄さです。カラカラの空気です。

### 3、びっくり(中華人民共和国の凄さ)

港や山や高級住宅街にも中国独自の家屋はなく、中国文化は見えませんでした。「日本書紀の時代から先生は、中国や韓国なのに…」と。中国から学んだのは、漢字、産業だけでなく文化も教えてもらいました。

急成長の経済発展から10年以上「大切な遺産や財産は何ですか？」そんなに今は地球で一番になり、「アメリカに勝ちたいの？」など、思いました。

また、人を危険にさらす戦争。結局は国土を広げたがり、資源の取り合い戦争です。平和、文化を残しつつ経済発展を、進めてほしいです。

独断と偏見な意見ですいません。

大連の「中日企業家交流会」での名刺交換会で感じたのは、中小企業家同友会で企業の10年後を考える勉強会は、今は不要かと思いました。

会合では経営から離れてしまった自分の立場を、考えさせられた一日でした。ITで活躍している欧米や日本にいる中国人が自国の発展のために

戻ったら、すごいでしょうね。「やはり怖いことです」

### 4、びっくり(妻について)

松井味噌有限公司様訪問「とても立派な経営の話」、同友会の「フニックス会」での発表者も今の奥さまは「中国人」でした。やはり中国での成功は、奥様なしでは、語学も大変なんでしょう。私の勝手な意見ですが、堂々と話されている男性経営者の奥さまに対する、立ち位置が聞きたくて仕方がないです。

松井社長の言葉で、従業員の給料は、会社は8万円位を従業員のために用意して、5万円は本人に、残りは聞けなかったのですが、社会保険や、税金でしょうか？ 3万円の行方が聞きたかったです。法律、憲法などは改正のあり、その多くの決めごとは、中国共産党ですね。

☆日本学校の学生さんの交流は、素敵な出会いでした。彼女は早稲田大学を目指しているようで、日本語も堪能。両親が教師で、日本語学校を薦めたそうです。やはり一人っ子政策でした。丹東出身で、日本で学んで、国で活躍したいそうです。両親曰く 日本人は「マナーが良く、お金お金と言わないし、両親を大切にしている」そんな国なので「日本語学校に入って頑張りなさい」と言われたそうです。もう恥ずかしさでいっぱいでした。「泣きたいぐらい勉強していても時間がない」らしく、「泣くような勉強しなかった」私は応援したい気持ちで、「ウイチャット」をはじめました。

☆丹東(中国)からの境界線の少しの先に川を挟んで北朝鮮がありました。手の届く場所であり衝撃的な観光でした。このびっくりが、一番だったびっくりかも知れないかと。北朝鮮には「中国の応援は必要不可欠」。中国から毎日1500名以上の観光らしいです。何を見に行っているのか知りたいと思いました。

今回の旅を企画して頂いたお世話役様や、現地法人の方や、特に団長様、訪中団の会員の皆様本当にありがとうございました。いっぱいびっくりさせて戴いた旅でした。

## 2018年 訪中団 大連

(株) 豊田製作所 豊田浩二

今回の大連訪中団は私個人として、4年ぶり5回目の大連訪問。

初訪問はおそらく14、5年前だったと思います。その時と一番違いを感じたのは、市内・開発区ともに建築物と日本人の数。市内では高層ビルが増えたが日本人は減っていた。開発区では店舗（ネオン）も日本人も増えていたと感じた。開発区で日本人が増えたといっても数字は定かではないが体感的に大連全体では減少している。

大連は親日でデモもなかったが数年前の反日デモの影響が大きく前回訪問はデモの後、その前はデモの前。この2回でも日本人減少は顕著に表れていた。

もう一つの要因として中国が「世界の工場」と言われていたものから「世界の市場」に変化したからだと思う。仮に同じ企業数だとしても工場と販売事務所とでは駐在数が違ううえに実際には企業数も圧倒的に減少している。企業数が減少したのは中国共産党への不信感と中国以外のアジア諸国への移行、そして何より日本の景気業況の不安定と日本企業のスピード感の無さ。それに加え現地日系法人の責任者の無関心があると思う。

今回企業視察で訪問した企業には日本で有名な大手企業も中小企業もどちらも数社訪問した。中小企業では久しぶりに本音と生々しく、家族と自分の命を懸けたおはなしが聞けてと思う。一方、中小は進出・撤退準備も命を懸けて行っているのに対し、大手のある一社は社員の不正対策もしておらず、おまけに我々中小相手だからなのか名刺も持っておらず（こんなことは今回初めて）その企業が心配になった。そういった雇われ駐在社長が日本の本社の経営状態を圧迫し日本の景気に左右するのかなと思うと少し残念に感じた。

日曜の中朝国境の町「丹東」視察では思いのほか北朝鮮が近くに見えたのには驚いた。国境の川は400mの幅しかなく所々北朝鮮領土の中洲もあり100mも泳げばこちら側に到達できる距離。監視塔はあるというが約1km間隔らしい。フェンスなどもあるが、われわれ日本人からすれば、なんと警戒の少ないことかと感じる。川の兩岸を見比べて「生まれる場所がたったこれだけの距離の差で天国と地獄」となんだか複雑な気持ちにさせられた。

丹東の町では北朝鮮からビジネスマンなど中国へすべてとは言わないが簡単に仕事に来ているようだった。唯一の越境手段の橋は観光バスが往来し鉄道も走っていた。経済制裁など無いに等しいのかもしれない。

今回の訪中で感じたこと

- ① 日本の景気を左右しているのかも知れない要因の一つ
- ② 東アジアの実際の緊張状態を肌で感じた。

ようこそ大連へ！！

弁護士法人法円坂法律事務所 中 島 宏 治

2000年8月、当事務所は、中国遼寧省・大連市に事務所を設立しました。なぜ大連ですか？とよく聞かれます。当時は中国がWTOに加盟しておらず、サービス業の参入も制限されていました。法律事務所も北京と上海しか許可されていませんでした。そのような中、事務所を出すとしたらこの2都市以外にしたいこと、大連に多くの日系企業が進出していること、中国側のパートナーが大連外国語大学出身と大連に縁があったことなどが主な理由でした。

それから、大連の日本領事館や日本商工会、日系企業と顧問契約を締結するなど、日系企業や日本人のサポート役として一定の役割を果たしているかと思います。

僕自身も、2007年から2014年にかけて首席代表として現地に半常駐していました。

今回、大阪府中小企業家同友会（日中経済交流研究会）を中心とするメンバーが28名も大連を訪問してくれました。過去最大ではないかと聞いています。

大連は、材料を日本から入れ、中国で加工して日本に輸出するという従来のビジネスモデルでは採算が合わなくなり、日系企業の撤退が多くなっている地域です。実際に撤退の相談が徐々に増えています。このような地域を視察するときに、どのような訪問先企業を選択するか、訪中委員会にていろいろ協議しました。

結果として、販売先を中国市場にシフトしたり、中国企業・中国人学生が日本とのかかわりをどのように見ているのかを知るいい機会になったのではないかと思います。

僕がどうしても訪問先として外せないと考えていたのは、松井味噌さんでした。28年前に25歳の若さで大連進出を果たし、中国ビジネスの良いところも悪いところも経験しており、更に東南アジアにも目を向けてグローバルに展開されています。今回訪問したのは、数年前に買収した大連金岡食品有限公司でした。

僕が一番印象に残っている話は、中国のあまりに厳しい経営環境が競合相手をつぶしてくれた、という話でした。競合相手が次々と倒産・廃業に追い込まれる中で、中国における長年の経験が生きてしぶとく生き残って勝負している姿が、本当に素晴らしいなと思いました。今度は、是非もう少し遠方（瓦房店）の工場と農場を視察に行きたいと思います。

また、日本との取引を希望する中国ローカル企業との交流会は、訪中団としては初めての取り組みだったと思いますが、とても良かったと思います。いくつかのテーブルを作ってテーブルごとに交流してもらいました。もう少し参加企業の情報を事前に入手できれば、座席の設定も工夫できたように思いますので、今後の課題ですね。大連は親日的で、日本とのかかわりが深い場所です。日本語を学ぶ大学生もたくさんいます。今後は、大連（中国）から日本への進出、取引が増えると思いますので、大連での成功例を作っていきたいと考えています。

参加された皆さんに大連の魅力を伝えることができ嬉しかった5日間でした。

以 上

## 2018年訪中団レポート

「歴史と異国風情漂う遼寧省 大連の今昔を見る」

(2018年10月20日～24日、28名参加)

株式会社電研社 野村明宏

今年の訪中団は、遼寧省「大連」。日本との関わりが深い東北の港町であり、歴史と今の中国を実感できる興味深い5日間でありました。

毎回のことながら、単なる視察旅行ではなく同友会会員さんの関わる先を巡る視察は一味違います。IT関連企業、味噌メーカー、大手電動工具メーカー、大学生や地元企業家の方々との交流と、盛りだくさんでした。また休日には旅順、丹東と歴史を感じさせる街を巡りました。

### 「一步跨ぎ」 【北朝鮮との国境の街、丹東】

柵の外の小川を超えればそこは北朝鮮という場所（一步跨）や、国境となっている川「鴨緑江」の遊覧船の上から見る北朝鮮は、人けがなく寂れた感じの町並みで、派手な看板がかり人や車の往来が絶えない丹東とは全く対照的な外国でした。国境にかかる橋「中朝友誼橋」を北朝鮮から渡ってくる国際列車を見た時には、感慨深いものがありました。

### キャッシュレス社会

今回訪問した「NETSTECH社」は、日本の「NET STARS」の子会社。マルチ決済「STARPAY」のアプリや「WeChat」のミニプログラム開発を手掛けます。日本に中国人スタッフを20名派遣しアプリを開発、中国国内では顧客サポートとプログラム開発を担っています。

中国のキャッシュレス化には驚かされます。街のショッピングモールなどで買い物をすると、財布を開いているのは私だけ。現地の方々はスマホで支払いを済ませていました。高額紙幣を出す時「WeChat Payは無いのか？」と露骨に嫌な顔されます。

### やはりドラマとアニメ

「大連海事大学」では、学生さんとの交流。団員さんの中国語会話の先生のツテという訪中団ならではのご縁での訪問でした。大変優秀な学生がたくさんいましたが、やはりアニメなどの日本文化に興味があるようで、経済的側面よりも文化面を重視されているようでした。7%弱の経済成長とはいえ、人気のホワイトカラーへの就職は容易ではないなどなど、中国の今を語ってくれました。

### 日本は周回遅れ

「大連金岡食品有限公司」は、明石市の「松井味噌株式会社」の子会社。大連に進出されて28年の進出企業の老舗。大変興味深い話の連続で、その内容にメモを忘れて聞き入ってしまうほどでした。話の内容は、苦労はするが大連は味噌づくりには適していること、先んじての進出が功を奏して年商が100倍になったこと、役人の賄賂社会と納入業者とグルになって私腹を肥やしていた従業員の話（かつて役人は、ヤクザ。従業員は、泥棒といわれたという）、今の中国人の生活事情、ハイリスクな国ゆえのベトナムを加えたりリスクヘッジなど多岐にわたりました。

特に印象に残ったのが「日本は、ビジネスの上では中国に周回遅れ」ということです。減速しても

6.5%の経済成長、10年で倍の市場に発展する勢いの中国ビジネス。儲けに向かって努力する気質、意思決定の速さ、短期間でスクラップ and ビルドを繰り返す事業意欲の旺盛さ・・・。

それらを有する中国ビジネスマンに比べて、ビジネスを倍にしようとは思わない日本企業家のマインド、起業数の少なさを指して「周回遅れ」と言われていました。「中国はもっとお金になる。いかに彼らに財布を開かせるか？それがこれからも大切。」とも言われていました。

大胆な中にも絶えずリスク管理をするバイタリティーの塊のような松井社長から、多くを学ばせていただきました。

正に日中経済交流研究会の醍醐味です。

## 訪中団に参加して

Pink Rose 広瀬みゆき

今回の訪中は日程の調整がうまくできずに、みなさんに遅れての参加となり、2日目の夕食から合流させて頂きました。

3日間という超ハードスケジュールで、その上見学できなかったところも多かったのでとても残念で少し消化不良でした。

出発の直前まで多忙だったために前日もほとんど寝ていない状態で、一人寂しく飛行機に乗り日本を出国。大連空港に降り立った時はヘトヘトでした。

そこから地図を片手に地下鉄に乗り込み、ホテルの最寄駅に到着してから心もとなく、自分の感を頼りに徒歩でホテルまで向かいました。

スーツケースを引っ張りながら歩く大連市内の街並みは大変美しく、ここが中国であることを忘れるほどでした。

通りには日本車などほとんど走っておらず、ベンツやBMWやアウディなど高級な車ばかり。軽自動車もてはやされる日本では考えられない光景でした。

なんとか無事にホテルへ到着することが出来て一安心。

いつも進行方向と逆の電車に乗ってしまうほど方向音痴の私が、無事たどり着いたことにちょっと嬉しくなり、チェックインを済ませて部屋に荷物を置いて身軽になったところで、さらに街へ探索に出かけてみました。

ホテルから徒歩5分圏内にショッピングセンターやショッピングビルが軽く5軒ほどありました。スターバックスのカフェやH&M、ユニクロなどのファストファッションなどなど。日本とさほど変わらない風景でしたが、異なるのはびっくりするほどの人の多さでした。圧倒されてしっかり前を見て歩かないとすぐ人にぶつかりそうになります。

スーパーマーケットの食料品売り場にも行きましたが、夕方の食事時だったからか、屋台よりも綺麗で清潔なフードコートで家族連れや友人同士で楽しそうに食事をしていました。この光景も全く日本と変わらず、明らかに豊かな生活を送っていることはここからも感じ取ることが出来ました。

今回の企業訪問で、私が最も強い感銘を受けた 松井味噌株式会社 松井社長をご紹介します。

松井味噌株式会社は、日本の明石市に本社がある大正3年に創業された老舗の味噌作りの

メーカーです。

味噌を基盤とした調味料の製造や、飲食店やコンビニエンスストアなど向けにオリジナル商品開発も手掛けられています。

松井社長は会社を継承してから、まだ25歳という若さで、このまま日本で製造していてもいつかは限界が来ると考えて海外へ製造拠点を探すことに。

そして28年前に大連に進出することを決断されました。なんとあの天安門事件が起こった翌年です。天安門広場では、中国人民解放軍がデモをしている学生や若者たちを戦車で弾圧し、たくさんの方が犠牲になっている映像を見て、私達は計り知れない衝撃と大きなショックを受けました。

そんなことが起こった翌年に、あの中国へ工場を建てて進出しようという決断とその勇氣には敬服します。

中国に工場を建てると聞いて、周囲からは世間知らずの若い社長が何もわからず、誰もが成功するはずがないともちろん反対したのは想像のとおりでした。

しかし松井社長は、自分自身の目で確かめるために何度も中国に出向かれて、水質・土壌・風土などあらゆる点についてご自分で徹底的に調査をされました。

良質な水を確保できるのは、水道局がある近くに違いないと良質な水源を調達できることがわかり、また日本が大連を統治していたことで日本語が堪能で安価な労働力を確保ができて、原材料には欠かせない良質な大豆が調達できることもわかりました。

いろいろなことを熟考された結果、他の日本企業に比べてかなり早い時期である1990年頃に進出を決断されました。

とにかく早く進出したことが成功の秘訣だったとおっしゃっていたのが印象的でした。

どんなビジネスでも一番手であれば、先行者利益を享受できることは当然のことではありますが、決して先駆者が優位に立てることばかりではありません。

パイオニアはいつの時代も、人の何十倍もの苦難を乗り越えるから成功するのだと松井社長の力強いお話を聞いて確信しました。

海外でのビジネス展開には、常にリスクが付きまとうのは当然のこと。

特に中国は、共産党の政策は朝令暮改であることが多い。

故に去年可能であったことが、今年も同じようにできるかどうかなど誰にもわからない。

すべてにおいて日本とは、比べものにならないくらい物事の進むスピードが速い。

そんな環境の中でいつもリスクヘッジを考えながら、日々決断をされている松井社長の精神力は強靱であり、どこからそのエネルギーが出てくるのだろうと感心すると同時に勇氣を頂きました。

そんな厳しい環境の中、競合他社は次々に失敗して中国から撤退していきました。

結局、そんな環境で生き残れたので、競合がいなくなり成功したのです。と飄々と語られる姿に感動しました。

あきらめない心、負けない心、折れない心。そして継続していく力があれば、どんな厳しい状況でもチャンスのタイミングが訪れるのだと教えて頂きました。

松井社長が、「日本は中国に完全に負けていると自覚をするべき。中国が他国に遅れをとっていたのは、文化大革命以降のたった40年間程度だけのことである。完全に彼らは豊かになり中国は世界で一番になれると自信を取り戻している」とおっしゃっていました。

中国を生産拠点としての市場から、豊かになって富を享受している彼らのお財布をどうしたら開けることができるのか？

可能性のある魅力的な市場が、すぐ隣の国に存在するのだと考え方を変えていくことが日本の喫緊の課題であると思います。

そのためには、日本人であるとかないとか、中国人であるとか台湾人であるとか……。全く意味のない馬鹿げた議論をして無駄な時間を費やしている場合ではないと危惧しています。

私達は同じアジア諸国に住むアジア人として一丸となり、協力をして助け合いながら共存していく必要が重要な要素であると思っています。

なぜならば、ご存知のようにアメリカではトランプ政権のもとで、国家が分断される傾向にあります。

故に、トランプ氏は自国を守るために、今後も日本や中国に圧力をかけてくることは間違いありません。

そんな非常事態にアジア諸国の中で、争いあっても何一つ得策ではないのです。

私は近い将来、早く日本人みんながそのことに気が付いて、賢く立ち振る舞える日が必ず訪れると信じています。

世界中の人達が平和でありますように。

## 2018年訪中団報告

日本度器株式会社 藤田 眞弘

今年の訪中団で訪れたのは中国の観光地としては私が一番好きな場所である「大連」でした。今までに観光で2回・業界の視察で1回訪れていましたので、今回は4回目の大連訪問なのですが、一番最近行ったのが2005年9月ですので13年前という、かなり昔の大連しか知らないという状態でした。

相変わらず街は綺麗で、瀟洒な建物もあり、仕事で行く上海とはかなり違った町並みです。とは言え、昔と比べてマンションなどの建物の数が増えていて都市化が進んだな～というのが第一印象でした。

観光で訪れた「旅順」では203高地や東鶏冠山景区などを訪問しました。

以前にも訪れたことがある場所ですが、変化として反日的な文言が中国語で表記された説明書きが増えていたことと、日本語の説明書きが激減していたことです。それだけ日本人の観光客が減っているということなのでしょう。

また、2日目に行った北朝鮮との国境にある丹東は、一般的な観光旅行では訪れることの少ない場所で、さすが訪中団と思わせる観光地でした。

と、ここまで書いて企業訪問のことに全く触れていないことに気づきました。

最後に少しだけ、松井味噌の松井社長はバイタリティーがあって数々の経験に裏打ちされた話はとても面白く、興味深い内容でした。日中の例会で報告していただければ訪中団に参加できなかった会員さんにも聞いてもらえるので、実現してほしいと思います。

現地企業との交流会も楽しく意義のあるものでした。今度日本にも来られる機会があるようですので、その際は皆さん参加してください。

## 訪中団感想文

細田工業株式会社 細田新介

昨年に続きまして、二度目の参加になりました。

今回は特に丹東に行けるということで非常に楽しみにしていました。川を挟んで向こう岸は北朝鮮。一度、自分の目で見てみたい！そんな気持ちでワクワクでした。

出発日は朝が早く、片側通行の関空連絡橋をまともに通行できるのか懸念もありましたが、スムーズにいけました。初日は視察ということで203高地等を周りました。軍が生活していた宿舎や大砲などを見て回ります。

夕食は楽しみにしていた餃子！美味しかったです。

二日目は高速列車に乗り、片道約二時間半かけて丹東へ。

昼食で訪れたのは北朝鮮レストラン。綺麗な女性の歌のショーを鑑賞しながらの食事でした。しかし、動画撮影は禁止。彼女達に何かしらの事情があるのでしょうか。

その後、乗船し中朝国境を流れる河から北朝鮮を眺めました。寂れた工場や日曜日なのに動いていない小さな観覧車。殺風景で活気を感じません。

中国側には高いホテルやビルが立ち並び、人も多く対照的です。川を渡りたくなる気持ちも分かる気がしました。

三日目のIT企業では、中国人がほぼ現金を使わないキャッシュレス社会を目の当たりにしました。(現金を使用したのは最近数カ月で二回とか)

大学訪問では相手をしてくれた学生さんの日本語力がたどたどしく、意思疎通を図ることに苦労しましたが、私自身も勉強中のたどたどしい中国語で何とかなっただとは思いま……。勉強になりました。

四日目は松井味噌様を訪問。工場見学をさせて頂き、中国進出から25年の興味深いお話がありました。

夕食は火鍋でした。辛い火鍋を食べると中国に来たなあと感じます。

最終日は大連市内の視察から帰国。

今回と前回の訪中団で感じたことですが、ゴミが落ちていない、店員の愛想も悪くない、「いらっしゃいませ」や「ありがとう」がある。全ての街やお店がそうとは言いませんが、訪中団に参加する前までのイメージとは中国の印象がガラリと変わりました。

今回もハードな旅でしたが充実感でいっぱいです。皆様ありがとうございました。

## 2018年訪中団感想文

細田工業株式会社 細田麗

二度目の訪中団への参加になります。中国に来ること自体も二度目でしたので、まだまだ新鮮な気持ちで赴きました。

今回は観光の時間が前回より多かったですね。印象的なのは、丹東観光。北朝鮮との国境を見るなんて、なかなか行く機会のない場所が組み込まれていて嬉しいです。高速列車にも初めて乗るのでワクワクしていましたが、日本の新幹線とほとんど同じ感じでした。しかし、駅舎は大きい。天井、高い！大連北駅も丹東駅も非常に立派でした。

国境は、あまりにも「すぐそこ」で、実感が湧かないほど近い。ですが、観光船に乗せていただき、至近で見られて嬉しかったです。川を一つ挟んで、兩岸を見比べると、確かに建物の数や土地の雰囲気が違うなあ、と、より間近で感じられました。

弊社は食品機械を取り扱っているのもあり、企業訪問でやはり気になるのは食品会社の松井味噌様。海外の食品会社の工場内に入ることができる機会は稀なチャンスなので、これもスケジュールに入っていて嬉しいです。面白いなあと思ったのは、食品ができるまでのマシンの並び。味噌の原料の大豆が熱された後、下の階に落ちて次工程に移る仕組みになっているなど、ライン構成が上下のフロアに渡って続いているのは新鮮でした。

現地の大学生との交流も、楽しみにしていた内容の一つ。私は中国語を勉強して1年ちょっと経ちます。ですので、お互いに拙い外国語同士で意思疎通できたらいいな～と思って臨みました。が、私に付いて下さった学生さん、全然拙くない。すごい流暢。自分の中国語、出る幕なし・・・でも、それでも、こっちが勉強させてもらうために中国後で話しかけさせてもらえば良かったと、今になって思います。こんなチャンスめったにないのになあ。自分の中国語を磨いて、話しかけることに臆病にならないようにしよう、と思いました。でも、大変楽しくお話させていただいて嬉しかったです。

それから、今回は食事がおいしいところが多かったなと思います。餃子と火鍋は特に美味しかった！海外の食事は不安なこともあるので、大変ありがたかったです。おいしい上に、異国の味もしっかりと感じられたので、食事に関してもとても満足させていただきました。

今回も、大変有意義で充実した内容で、参加させていただきとてもありがたかったです。今回の旅をサポートして下さった皆様、本当にありがとうございました。

# 中国、爆発的な行動力を持つ国

弁護士法人 法円坂法律事務所

弁護士 山本 美愛

今回、訪中団に初めて参加し、大連・旅順、丹東を訪れました。全ては書ききれない、内容の濃い旅程でしたので、いくつかピックアップして感想を述べたいと思います。

## 第1．丹東観光について

北朝鮮との国境の町、丹東を訪問しました。北朝鮮のイメージに引きずられ、暗い田舎町を想像していたら、全く違いました。高層マンションが立ち並び、カラフルな看板や電飾で彩られた街で、沢山の人が賑わっています。

そして、数々のブランドショップが立ち並んでおり、心齋橋顔負けのグッチの路面大型店が鎮座していたことには驚きました。

数年前からグッチでは、龍や薔薇、蜂などをモチーフとした極彩色の刺繍や大ぶりのゴールドの金具を使ったラインを毎年出し続けています。

グッチだけでなく、ルイヴィトンもシャネルも同じように派手なパッチワークを張り付けた商品等をラインナップし続けています。ベーシックな逸品を求める日本人と比べて、中国人はデザイン性の高い派手な物を欲しがるとともに、高級ブランドのマーケティング力と商魂を見せつけられるとともに、今や彼らの求めるカスタマーは私たちではない、中国人なんだ…とややひがみっぽい気分させられました。

話はそれでしたが、丹東は川幅わずか400メートルの鴨緑江という川が北朝鮮との国境となっています。この国境を泳いで渡ってくるという脱北者が、中国をバスターにして韓国へ渡るのです。丹東から見る北朝鮮は、色彩のない寒々しい街です。見せつけるかのように立ち並ぶ高層マンションの煌びやかな丹東の夜景を、北朝鮮人はどう見るのか、うっすら見える人影に聞いてみたい思いでした。

## 第2．松井味噌工場見学

松井味噌さんの工場見学をさせていただきました。

松井社長は大連に1番乗りした日本人です。中国の急成長の波に乗って会社も急成長しました、というテッパンストーリーではなく、もっと生臭く、サバイバーとして、勝手異なる中国でどう生き伸びてきたかについて語っていただきました。

話の内容について詳細は割愛します。

ただ、まず稼ぐのが正義、それで社員の給料が上げられる、会社がよくなる、次の一手でまた稼ぐ、この好循環を作り出すためには綺麗事抜き、というのがお話を聞いた

私の理解です。話を聞きながら、「商売人は金なかったら死んでんのも同じや」という祖父の口癖を思い出していました。

私たち 30 代は、物心ついた頃からずっと不況しか知りません。

稼ぐことに、愚直に、貪欲にならないと、日本は永久にジリ貧から抜け出せないと思います。貧しくていいことなんてないし、貧しいと心が卑しくなります。公明正大が美德という日本ルールは世界では通用しない、騙される方が悪いです。郷に入れば郷に従う割り切りがないと世界相手に成功できないと、社長の話を聞いて痛感しました。

### 第 3. 旅順観光について

ガイドさんに完璧な歴史解説を加えてもらえ大変勉強になりました。

旅順は日露戦争の激戦地であり、近代日本史の分岐点となった場所です。

日本軍は旅順港を見下ろせる 203 高地を攻め落とし、旅順港へバルチック艦隊が到着する前に旅順港を制覇しました。旅順港は、入港するための入り口が非常に狭い等の地理的要因から「守るは易し、責めるは難し」と言われる場所なのだそうです。仮に、日本軍が 203 高地を陥落させられず、バルチック艦隊の入港を許していれば、日本はロシア領となっていた可能性もある…歴史の If を考えるとゾッとする、そんな場所でした。

### 第 4. その他いろいろ

紙面との関係で割愛しますが、その他にも、リョービや京セラの工場見学、大連海事大学で日本語専攻をする学生との交流もできました。丹東では北朝鮮レストランへも行きました。また、政府の企業誘致説明会に参加し、大連の企業家と交流会も出来ました。

### 第 4. 終わりに

中国は政治的に不安定な国ではありますが、決めたら即行動、失敗したらその時考えるという、爆発的な行動力を持つ国です。日本は中国とどう付き合っていくのか、安倍首相の言う「共存共栄」が出来ればいいですが、そう甘くはないでしょう。

最後になりますが、このような貴重な機会を作っていただいた、訪中委員の皆さんに感謝申し上げます。本当に楽しかったです、ありがとうございました。

以上

## 2018年度 訪中団 in 大連（遼寧省）に参加して

フセハツ工業株式会社  
吉村篤

### 1. はじめての訪中団

はじめて訪中団に参加させていただきました。中国は2回目の訪問です。前は5年前に広東省東莞に行きました。大連はもちろん初めてです。会員の皆さんの手作りの5日間の旅行ということで、和気あいあいとした雰囲気、充実した楽しい訪中の旅でした。

大連は青空の広がる清々しい季節で、とても過ごしやすかったです。また、食事も美味しく、5つ星ホテルに宿泊させていただき、くつろぐことができました。

4日目には皆さんと別れて、前日の交流会で知り合ったばかりの同業の工場を一人で訪問させていただきました。このような自由度の高い旅ができるのも同友会の訪中団ならではの良さだと知りました。

### 2. 日本との違い、中国の今

今回の訪中で感じたことを率直に箇条書きすると、

- ①すごい高層ビル群。大阪よりはるかに多い。
- ②新幹線の北駅が飛行場みたいで大きすぎる。お店のサービスは丁寧でよかった。
- ③丹東（鴨緑江）観光で北朝鮮の近さを実感。北朝鮮の写真を撮っても捕まらなかった。
- ④公共交通機関利用は必ずパスポートと手荷物をチェックされる。どこに行くのも行動を把握されている。指紋は10本とも全部採取される。
- ⑤キャッシュレス社会。ただし中国銀行にお金の流れのデータを蓄積されているようだ。
- ⑥全国から集まっている日本語専攻大学生はアニメや日本語に興味はあるが、日本のことはあまりよく知らないし、行ったことがない。大阪はどこにあるか知らない。
- ⑦ビジネススピードがとにかく速い（日本は周回以上遅れか？）。
- ⑧大連の経済技術開発区の製造業に勢いを感じなかった。日系企業やその下請けの地元企業（訪問した同業企業）を含めて。
- ⑨大連の地方政府は金融・IT・不動産等の大型投資に興味があり、中小企業誘致（関係づくり）にはあまり熱意を感じなかった。

### 3. 日本の近代と現在

1日目は旅順要塞跡（203高地と東鶏冠山）、最終5日は満鉄総裁室陳列館・大和ホテル・旧日本人街を観光しました。映画『203高地』や小説『坂の上の雲』の舞台で、一度行ってみたいとも思っていました。今回実際に見学して日本の近現代と大連の歴史の関わりの深さを実感しました。

### 4. まとめ

大連は日本支配時代（大連人がいう「満鉄時代」）や日系企業城下町時代を乗り越え、急速に発展しているように思えました。今度はアカシアの咲く季節にまた大連に行ってみてくださいね。